特別推進プロジェクト中間報告
「沖縄的なるものの変容―伝統と創造のハザマで」

地域格差と高卒就職をめぐる進路意識
―工業高校在学生の調査から―

水　谷　史　男

1．はじめに

1990年代から続いた経済不況と産業・雇用構造の変動を受けて、長く低迷・低落していた高校卒業者の新卒就職率・転職を含む就業状況は、ようやくここへ来て回復の兆しを見せている。ただし、就職率の改善といっても地域による格差は大きく、学校基本統計や職業安定関係の統計を見るだけでも、東京・名古屋などの大都市圏とそれ以外では、大きな差があり、居住地の移動を含む就職者の意識の変化も重要である。しかも若年層の失業・雇用問題がいわゆる「格差社会論」の、ひとつの焦点として議論になっている状況から、専門学校などへの進学が増加している傾向の中で、就職者だけではなく高卒者の多様な進路の実態と地域移動の方向を正確に捉える必要がある。

その点で注目したいのが、各種社会経済統計指標で見るかぎり日本の都道府県比較の中で、格差の最下位群に位置づけられてしまうのが沖縄である。既に筆者も別稿で述べたことがある(1)が、統計上の格差は他県と沖縄の間だけでなく、沖縄県内部の島々の間にも存在する重層的なものである。しかし実際に沖縄の地域社会を中から見てみると、沖縄（あるいは北海道も）は他の都道府県と同列に並べて同じ測定指標で比較することのできない側面をもっている。それは、地域が持つ歴史的な要因と、それとも関わるがライフスタイルに反映する文化的な要因である。ここでは、この点にあまり立ち入って検討する余裕がないが、高卒就職の動向に関わるかぎりで調査結果と合わせて考察してみたい。

本稿では、明治学院大学社会学部付属研究所の特別推進研究プロジェクトの一環として、2005年度に沖縄県宮古島を対象に行なった調査研究の一部である工業高校生へのアンケート調査結果と、これまで筆者が実施してきた工業高校調査のうち茨城県の工業高校で行った同種のアンケート調査データと比較する形で報告・検討を加える。このアンケート調査の質問のねらいは、高校生の卒業後の進路希望と現在の学校生活を中心に、生徒の将来観や地域生活を含む社会意識を探るものである。

2．沖縄の学卒就職の現状と地域格差をめぐって

近年、日本の若年層の雇用就業をめぐる問題として取沙汰される、いわゆる「フリーター」「ニート」問題（そのように一括すること自体が非常に問題だが）などの不安定就労、失業者、そして働けないあるいは働かない非就業者の増加をマクロに見て、「キャリアデザイン」なる用語で社会政策的対応を考える動きが急速に強まった。「キャリアデザイン」研究の狙いとす

表１　沖縄県高校卒業者の進路別内訳（'02.3～'06.3）

学校基本調査

	高卒者（'02）	高卒者（'06）	県立高（'06）	全日制	定時制	私立高
卒業者総数	17,134 （100%）	17,364 （100%）	16,391 （100%）	16,067 （100%）	324 （100%）	973 （100%）
大学等進学者	5,330 （31.10%）	5,395 （31.07%）	4,763 （29.05%）	4,749 （29.55%）	14 （4.32%）	632 （64.95%）
専修学校（専門）進学者	3,822 （22.30%）	4,294 （24.73%）	4,243 （25.88%）	4,210 （26.20%）	33 （10.19%）	51 （5.24%）
専修学校（一般）進学者	416 （2.43%）	586 （3.37%）	513 （3.13%）	513 （3.19%）	0	73 （7.50%）
公共職業能力開発施設等	378 （2.21%）	317 （1.83%）	316 （1.93%）	313 （1.95%）	3 （0.93%）	1 （0.10%）
就職者	2,283 （13.32%）	2,488 （14.33%）	2,476 （15.11%）	2,340 （14.56%）	136 （41.98%）	12 （1.23%）
一時的な仕事に就いた者	－	617 （3.55%）	609 （3.72%）	586 （3.65%）	23 （7.10%）	8 （0.82%）
それ以外	4,893 （28.56%）	3,630 （20.91%）	3,434 （20.95%）	3,320 （20.66%）	114 （35.19%）	196 （20.14%）
死亡・不詳	12 （0.07%）	37 （0.21%）	37 （0.23%）	36 （0.22%）	1 （0.31%）	0

るところは、いくつかの側面と手法・分野が考えられるが、中心は労働生活の生涯にわたる設計という発想と合わせて、ライフサイクル・ライフステージの諸段階に対応した課題を具体的に設定し、その解決を職業能力の開発と蓄積に絞って考えることにあるだろう。

それが旧来の雇用「労働問題」「社会政策」というような用語を避けて、あえて「キャリア」を持ち出しているのは、進学率の上昇にともなって多くの青年期にある人々の学校教育の期間が長期化し、学校教育が経済的な生産性に貢献する十分な能力を身につけた人材を育成するのではなく、現実には学力の低下をもたらし勤労意欲、職業労働への積極的な意識が弱体化しているのではないか、との危機感が現れてきたことを背景としている。

しかし、後期中等教育に関し大学進学を前提とした普通科教育だけをみてものを言うのは、明らかに偏向しているといわざるをえないし、学校教育が科学技術の先端的な分野や将来の指導者となるべき優秀なエリートをいかに養成するかという問題と並行して、学校教育内部で日々否定的な評価を与えられ、なおかつ有為な人材として「再チャレンジ」を求められる若者を、いかに希望に満ちた職業世界に誘導できるかが極めて重要な課題である。

その意味で、これもまた沖縄という風土と空間がいまもって保持しているオルタナティヴな可能性を考えてみるのは無意味ではない。とはいえ、まずは沖縄の高卒就職の現状をみておこう。

沖縄県全体の高卒者の進路（2006年３月卒業

表２　沖縄県・茨城県・全国の大学進学率・専修学校進学率・就職率（'00～'05）

	大学等進学率（%）	男女内訳（%）		専修学校（専門課程）進学率（%）	就職率（%）	卒業者総数
		男	女			
沖縄県						
'00年３月	29.9	－	－	27.7	14.3	16,759
'05年３月	31.1	46.5	53.5	24.7	14.9	17,364
茨城県						
'00年３月	43.2	40.3	46.1	17.9	19.3	34,090
'05年３月	45.4	44.4	46.4	19.5	20.0	30,169
全国						
'00年３月	45.1	42.6	47.6	17.2	18.6	1,328,902
'05年３月	47.2	45.9	48.6	19.1	17.4	1,202,738

者）を学校基本調査の数値で示したものが表１である。沖縄県には2005年４月時点で公立・私立あわせて67校（うち私立は５校で、いずれも那覇または沖縄本島にある）の高等学校があり、54校は全日制、定時制のみ１校と全日制と併置校７と少ない。なお本島から遠く離れた宮古には５校、八重山（石垣島）には３校がある。'06年の高卒者のうち94.4%が県立高校で、私立高は残りの5.6%に過ぎないが、大学･短大への進学率は県立が29%であるのに対し、私立は65%とかなりの差がある。これは学科構成が私立は普通科に偏っていることによるものと考えられるが、他県と比べて特徴的である。

また、就職者比率は私立高と定時制を除いて15%程度で、10年前までの20%水準に比べ高卒就職者率は低下している。その分、専修学校への進学が４人に１人程度の水準になっているのと、「それ以外」つまり進学も就職もしないまま卒業している人が、20～25%もある。この人々が、卒業後どのように過ごしているのかは不明確である。いわゆる「ニート」概念は、学卒後上級学校へ行かず就職もせず、仕事に就くための職業訓練もしていない35歳以下の人口を指して使われるが、これは逆に当該人口から就学者と就業者、および主婦等の人口を差し引いた残余概念でしかなく、実態は必ずしも明確ではないが、かなりの比率で存在していることになる。学校基本調査は、卒業時の在籍学校が把握している数値なので、卒業後の動向は把握できない。

表２は、学校基本調査から高校卒業者の進路別に2000年３月と2005年３月卒業者の沖縄県・茨城県・全国の進学率と就職率を比較してみたものである。沖縄県に特徴的なのは、高卒者の大学等進学率（短大を含むので、４年制大学でみるとさらに進学率は低くなるが）が30%前後と全国より15%以上低く、逆に就職率も全国より低いので、専修学校（専門課程）進学率が25%弱と高くなっていることである。2005年３月の数値でみると、専修学校（専門課程）進学者は4,294名（卒業者総数の24.7%）これに専修学校（一般課程）586名（同3.4%）と公共職業能力開発施設等に進んだ者317名（同1.8%）を合わせると29.9%、つまり就職者の約２倍の人数が専修学校や職業能力開発施設などに進路を求めていることになる(2)。

沖縄の高卒就職率が全国より低いのは、多数の島嶼からなるという条件から県内の望ましい雇用機会そのものが少ないという事情と、学校

調査の項でもふれるが県外就職、つまり沖縄を離れて本土などに就職することへの意識的抵抗があることが背景に予想される。このことは同時に、県内の大学や専門学校も那覇か沖縄本島などに集中していて、進学の選択肢も限られるという条件を考慮する必要がある。離島の場合、進学にせよ就職にせよ若者がチャンスを求める機会を得ようとすれば、島を出ることになる状況は以前から変わっていない。

つぎに表３で沖縄県の高校学科別に2005年３月卒業者の就職先産業をみたものである。総数2582名（うち県外就職者887名）は、表２の就職者2488名に就学就職者94名を加えたものであるが、設置学科は普通科、農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科、その他となっている。ちなみに校名に「農林高校」とある学校が５校、「工業高校」が８校、「商業高校」が６校、他に「水産高校」が１校と「商工高校」が１校となっている。生徒数で内訳を見ると、普通科が全体の63.5%、工業が10.4%、商業が10%、農業が5.3%で、他は少数である。高卒就職者の出身学科別内訳は、普通科が29.4%、工業が28.7%、商業が20.3%とこの３つで78.4%となり、農業や水産などの比率は少ない。

就職先の産業別にみると、サービス業（416名就職者総数に占める比率16.1%）、卸売・小売業（398名15.4%）、飲食店・宿泊業（394名15.3%）、製造業（331名12.8%）と続き、医療・福祉（226名8.8%）、建設業（183名7.1%）、運輸業（160名6.2%）の他は100名以下となっている。出身学科との対応をみると、工業で建設業、製造業への就職が割合としては大きく、看護で大半が医療・福祉に就職しているが、他はさほど特定の産業に集中しておらず、農業系が農業に就職（23名農業系学科の就職者の８%）や水産系が漁業に就職（４名同3.8%）する割合はかなり少ない。

高校卒業後の若者が、東京、大阪、名古屋など日本本土の大都市圏に出ていくのは従来からみられた一般的な傾向であったが、現在も県外就職率が35%前後の沖縄県の場合、高卒就職者の３人に１人は学卒で県外に出て行く。しかし、県外就職者がそのまま就職先で定着しているかどうかは、学校は必ずしも把握していない。また、県内に就職した既卒者あるいは未就職者がどこかの時点で県外に出て行ったとしても、数値的にはわからない。従来も言われてきた点であるが、沖縄県の出身者の場合、他県よりもはるかに居住地を移動したり就業先を変更したりする傾向が強く、沖縄と本土を往復する例も多いと言われる。ただそれは実態を捉えた統計的な数値が継続してとられているわけではない。

沖縄県の特徴として他にも女性の就業率が高く、とくに常用労働者、一般労働者やパートタイマー労働者のどちらにおいても、男女の就業者比率は女性が男性を上回るという点がある。たとえば2004年の毎月勤労統計の数値では、常用労働者で全国が男性60%女性40%という構成であるのに対し、沖縄県は男性49.6%に対し女性が50.4%であり、業種別にみると沖縄県の産業別常用労働者人口の７割を占めるサービス業（'04年52.3%）と卸売・小売業・飲食店（21.1%）では、サービス業で女性比率56.9%（全国は50.5%）、卸売・小売・飲食店で女性比率60.0%（全国は56.0%）となっている。男女の賃金格差も大きく、製造業労働者の比率が少なく（'04年全産業常用労働者数の6.6%、全国は25.6%）サービス業が肥大した構造の沖縄県では、高卒就職においては男子よりも女子の方が雇用機会も就職決定率も高くなるのかもしれない。

以上、沖縄県の高校卒業者の進路と特徴を全国や茨城県とも比較しながら概略をみたが、われわれの高校２年生への意識調査との関係で、

表３　沖縄県高校学科別　産業別就職者数

学校基本調査（平成17）

	総数 （うち県外）	普通科	農業	工業	商業	水産	家庭	看護＊	その他
生徒総数（'05）	53118	33733	2802	5546	5309	289	632	0	3396
計 就職先産業	2582（887） 100%	759 29.4%	289 11.2%	740 28.7%	524 20.3%	53 2.1%	72 2.8%	37 1.4%	39 1.5%
農業	31（　1）	3	23	4	－	－	1	－	－
林業	1（　1）	－	－	－	－	1	－	－	－
漁業	8（　2）	1	1	1	－	4	－	－	－
鉱業	3（－）	－	2	－	1	－	－	－	－
建設業	183（77）	26	20	115	8	4	－	－	－
製造業	331（231）	72	51	152	40	3	5	－	4
電気・ガス・熱供給・水道業	77（19）	6	4	57	7	2	－	－	1
情報通信業	90（18）	36	2	19	29	3	1	－	－
運輸業	160（34）	38	10	60	30	6	3	－	2
卸売・小売業	398（48）	111	38	76	129	8	14	3	9
金融・保険業	24（　3）	5	－	1	17	－	－	－	－
不動産業	16（　2）	4	2	4	5	－	－	－	－
飲食店・宿泊業	394（149）	144	66	48	87	6	25	1	10
医療・福祉	226（97）	107	20	9	45	2	5	32	3
教育・学習支援業	12（－）	6	2	1	2	－	－	－	－
複合サービス業	64（14）	26	3	27	7	－	－	－	－
サービス業	416（145）	110	36	129	98	14	9	1	4
公務	95（33）	54	5	16	11	－	2	－	6
上記以外	53（13）	10	4	21	8	－	7	－	－

＊看護科は2004年度より福祉学科などに統合されたので、2005年3月卒業生はいるが、現在は福祉系240名に移行。また現在はこの学科のいずれにも入らない「総合高校」と「専攻科」が別に存在している。

２つの点に注意しておきたい。１つは、沖縄県全体の若年層の雇用や就業をめぐる問題は、全国の大都市圏以外の地域での若年者雇用の問題と基本的には共通する。それは地元就職への強い指向がありながら一定数は外へ出なければならないという条件はなくなっていないということ。ただ、高卒者の就職状況がきわめて悪化していた数年前までは企業側も学校側も、望ましい就職先に決定しない場合、あるいは職業への動機付けや意欲が不足する場合、より職業に直結すると思われる専門学校への進学でさらなる能力をつける方向をすすめた。

つまり高卒就職率が低下し、進学率とくに大学・短大への進学を上回って専修・専門学校等への進学が増加するという形で、長引く就職難をしのぐことになっていた。これは沖縄県だけに限らず、全国的にみられる傾向であったといってよい。それが、高卒予定者への求人がやや回復の方向にある現在は、「不本意進学」部分が就職に向くのと、この間生徒の進路指導において単に「進学指導」ではなく、技能・資格など職業能力と労働体験など職業意識・勤労意欲の啓発に学校として真剣に取り組んだ職業系高校、とくに工業系高校のなかに就職率の改善と「就職指導」の好調が現れてくるようになった。われわれの調査もこの点をひとつの焦点として想定している。

しかし、第２点としてそのような「キャリア形成の学習」と「進学受験競争への教育」への分化は、カリキュラム上職業技能教育を想定していない普通科よりは、学卒就職を前提にして作られた職業系高校の方が取り組みやすい。しかし、沖縄のような島社会では、単に教育カリキュラムや制度の問題以上に、その学校が立地する地域社会や環境条件が教育の方向を左右すると考えられる。さらに何よりも問題になるのは、当事者である高校生が自分の将来を託すであろう職業生活や企業について、どのように考えているのか、という点である。たくさんの島嶼からなる沖縄県は、小中学校しかない離島も数多く、高校段階で既に自分の生まれ育った島を離れることも珍しくない。教育を受ける空間的・経済的条件において、日本本土と沖縄の格差以上に、都市化した那覇など本島の都市部と離島との格差は大きなものがあるのである。同時に、沖縄の若者にとって職業選択の可能性は、自分の住む島の中で暮らすか、島の外へ出るかというまず第一の選択があるわけで、それは東京でも大阪でもアメリカでもブラジルでも、外へ出て行って働くという点で少なくとも大きな違いはないと感じても不思議ではない(3)。

３．高校生調査の結果

ここでとりあげるアンケート調査データの概要は以下の通りである。調査を実施した２つの工業高校は、沖縄県宮古島市（旧平良市と城辺町・下地町・上野村が2005年に合併）にある県立M高校と、茨城県下館市にある県立Ｓ高校である。以下、両校の概要を述べておく。

M高校は、1968年修業年限１年の琉球政府立宮古産業技術学校として創立。開設時の設置学科は、自動車整備科、板金溶接科、ラジオテレビ科、洋裁科（各25名）であった。1969年より修業年限を２年制とし、1970年に産業技術学校を高等学校に改組。1971年日本復帰により沖縄県立M工業高等学校に改称。現在は、自動車機械システム科、電気情報科、生活情報科の３科定員各40名で、１学年120名の規模であり、宮古島唯一の工業高校である。2005年３月卒業生124名のうち、大学等進学者は15名（すべて男子)、就職者は50名（男子42女子８)、専修学校進学者43名となっており、進路指導部の公表によれば2006年５月時点の就職内定率96.2%、進路決定率は88.4%、大学合格者11名、専門学校合格者37名となっている。

Ｓ高校は、1962年設立の茨城県西部地区にある県立工業高校で、はじめ機械科、電気科、電気通信科の３科で発足したが翌年電気通信科を電子科に、1994年建設工学科を設置、電気科定員減。現在、機械科、電気科、建設工学科、電子科の４科で現在の生徒数642名１学年生徒数約220名の実績のある工業高校である。2006年の大学合格者は45名となっている。

アンケート調査は、Ｓ高校が２年生全員を対象に2005年１月、M高校が同じく２年生全員を対象に2006年５月に学校の協力を得て実施回収

表４　卒業後の進路希望と今充実し生き生き輝く生活か

	進路希望	とても そう思う	まあ そう思う	よく わからない	あまり 思わない	まったく 思わない	合計
Ｓ高校	大学・短大	1（3.2%）	10（32.3%）	1（ 3.2%）	16（51.6%）	3（ 9.7%）	31（100%）
	専門学校	1（2.3%）	16（36.4%）	7（15.9%）	13（40.9%）	2（ 4.5%）	34（100%）
	就職	5（4.6%）	36（33.0%）	9（ 8.3%）	44（40.4%）	15（13.8%）	109（100%）
	合　計	7（3.8%）	62（33.0%）	17（ 9.2%）	78（42.4%）	20（10.9%）	184（100%）
	進路希望	とても そう思う	まあ そう思う	よく わからない	あまり 思わない	まったく 思わない	合計
Ｍ高校	大学・短大	0	2（22.2%）	3（33.3%）	2（22.2%）	2（22.2%）	9（100%）
	専門学校	4（7.7%）	22（42.3%）	2（ 3.8%）	20（38.5%）	4（ 7.7%）	52（100%）
	就職	2（4.9%）	16（39.0%）	6（14.6%）	15（36.6%）	2（ 4.9%）	41（100%）
	合　計	6（5.9%）	40（39.2%）	11（10.8%）	37（36.3%）	8（ 7.8%）	102（100%）

したものである。調査項目、質問ごとの分布状況など単純集計結果は本稿の末尾に掲載してあるので、参照していただきたい。

まず、卒業後の進路希望と「あなたは今毎日が生き生きと充実して輝く生活だと思いますか」という質問への回答をクロスさせたものが表４である。この調査では、現在の学校生活への満足感や意欲をみるために複数の質問を用意しているが、ここでは他項目との相関が比較的良く出る「今充実しているか」というこの変数で代表させる。卒業後の進路希望は２年生の段階で大きく３コース（大学・短大、専門学校、就職）のどれを希望するかを聞いている。両校とも４年制大学希望の場合、一般の大学受験ではなく大学の指定校推薦枠での志願を想定している場合がほとんどになる。したがって大学・短大志望者の割合はＳ高校が16.8%、Ｍ高校が8.8%と少数派であるが、就職希望者はＳ高校が59.2%であるのに対しＭ高校は39.8% だけで、そのぶん専門学校希望が47.6%と多くなっている。

進路と充実感のクロスではさほどの相関はみられないが、少し注目されるのは、両高校とも大学・短大を希望する者には充実していると答えた比率が低く、就職希望者の方に充実感が高いことである。推薦入試などで大学に進学するためには成績を上げなければならないから、勉強に追われてむしろ充実感より疲労感があるのか、それとも大学進学はそれほど積極的な希望ではなく、単に就職するのを引き伸ばすモラトリアム的動機によるものか、これだけではよくわからない。

次の表５は、同じく現在の充実感と就職する理由（就職希望者のみ）、表６は現在の充実感と進学する理由（進学希望者のみ）のクロス集計結果である。いずれも変数間の相関はあまりないが、Ｓ高校とＭ高校の相違点がいくつか見られる。就職理由の方では、「早く自分でお金を稼ぎたい」という理由が両校とも過半数となっているが、「ぜひやってみたい仕事がある」という目標が見えている回答はＭ高校に多く充実感も高いが、Ｓ高校ではあまり多くなくどちらかといえば充実感を感じない方に強い。また「いずれ家業を継ぐ予定」「周囲からすすめられたから」などの理由はＳ高校には20%ほどある

表５　就職する理由（就職希望者のみ）×今充実し生き生き輝く生活か

	就職理由	とても そう思う	まあ そう思う	よく わからない	あまり 思わない	まったく 思わない	合計
S高校	ぜひやってみたい仕事がある	0	4（10.8%）	0	7（15.9%）	4（26.7%）	15（13.6%）
	早く自分で稼ぎたい	5（100%）	22（59.5%）	5（55.6%）	26（59.1%）	8（53.3%）	66（60.0%）
	いずれ家業を継ぐ	0	1（2.7%）	1（11.1%）	0	0	2（1.8%）
	周囲から勧められた	0	8（21.6%）	2（22.2%）	10（22.7%）	3（20.0%）	23（20.9%）
	学校の勉強はもう十分だ	0	0	1（11.1%）	0	0	1（0.9%）
	他の土地に行きたい	0	1（2.7%）	0	1（2.3%）	0	2（1.8%）
	その他	0	1（2.7%）	0	0	0	1（0.9%）
	合　計	5（100%）	37（100%）	9（100%）	37（100%）	15（100%）	110（100%）
	就職理由	とても そう思う	まあ そう思う	よく わからない	あまり 思わない	まったく 思わない	合計
M高校	ぜひやってみたい仕事がある	1（50.0%）	5（31.3%）	1（16.7%）	4（28.6%）	0	11（27.5%）
	早く自分で稼ぎたい	1（50.0%）	10（62.5%）	3（50.0%）	6（42.9%）	2（100%）	22（55.0%）
	いずれ家業を継ぐ	0	0	0	0	0	0
	周囲から勧められた	0	0	0	0	0	0
	学校の勉強はもう十分だ	0	1（6.3%）	0	2（14.3%）	0	3（7.5%）
	他の土地に行きたい	0	0	1（16.7%）	1（7.1%）	0	2（5.0%）
	その他	0	0	1（16.7%）	1（7.1%）	0	2（5.0%）
	合　計	2（100%）	16（100%）	6（100%）	14（100%）	2（100%）	40（100%）

が、M高校にはゼロである。

進学理由と充実感のクロス表では、「専門の勉強が深く学べるから」がやはり一番高く、S高校で47.8%、M高校で59.3%、次が「学歴をつけて希望の職業に就くため」がS高校で25.4%、M高校で24.1%となっている。ここは調査票の選択肢を少し学校ごとに変えたため、同じ回答同士で比較しにくい部分があるが、S高校

表６　進学する理由（進学希望者のみ）×今充実し生き生き輝く生活か

	進学理由	とても そう思う	まあ そう思う	よく わからない	あまり 思わない	まったく 思わない	合計
Ｓ高校	専門の勉強が深く学べる	1（50.0%）	13（54.2%）	3（60.0%）	13（44.8%）	2（40.0%）	32（49.2%）
	希望の職業に就くため	1（50.0%）	6（25.0%）	1（20.0%）	8（27.6%）	1（20.0%）	17（26.2%）
	楽しい学生生活を送る	0	2（8.3%）	1（20.0%）	7（24.1%）	0	10（15.4%）
	回りの期待に応える	0	2（8.3%）	0	1（3.4%）	0	3（4.6%）
	その他	0	1（4.2%）	0	0	2（40.0%）	3（4.6%）
	合　計	2（100%）	24（100%）	5（100%）	29（100%）	5（100%）	65（100%）
	進学理由	とても そう思う	まあ そう思う	よく わからない	あまり 思わない	まったく 思わない	合計
Ｍ高校	専門の勉強が深く学べる	2（50.0%）	9（47.4%）	2（50.0%）	15（75.0%）	3（50.0%）	31（58.5%）
	希望の職業に就くため	2（50.0%）	5（26.3%）	1（25.0%）	3（15.0%）	2（33.3%）	13（24.5%）
	楽しい学生生活を送る	0	1（5.3%）	0	1（5.0%）	0	2（3.8%）
	すぐには良い就職先がみつからない	0	4（21,1%）	1（25.0%）	1（5.0%）	0	6（11.3%）
	その他	0	0	0	0	1（16.7%）	1（1.9%）
	合　計	4（100%）	19（100%）	4（100%）	20（100%）	6（100%）	53（100%）

では「もう少し楽しい学生生活を送りたい」が20%程度あるが、Ｍ高校では２名だけで、むしろ「すぐには良い就職先がないから」という消極的な進学理由が10%以上あげられている。

次の表７は、充実感と将来就いてみたいと希望する仕事のイメージを選んでもらう質問とのクロス集計結果である。一番多いのは「技術者など自分のもつ技術や知識を生かした仕事」でありＳ高校で65.7%、Ｍ高校では64.5%とほぼ同率である。次がＳ高校では「公務員など安定した生活が送れる仕事」20.6%だが、Ｍ高校の方は「事業家や経営者など人を指導し高収入が得られる仕事」が10.4%と第２位にあげられている（これも選択肢の表現は少し高校ごとに変えたため数値は一律に比較できない）。「農業や漁業など自然を相手にする仕事」をあげたのはＭ高校で１名あるだけで、Ｓ高校にはいない。ここのクロスも有意な相関は見出せないが、「とくにない」「どんな仕事もしたくない」などの回答が少しあり、どちらかといえば充実感の低い方に出ている。

表８は、「あなたは10年後の夢として、どん

表７　希望する仕事のイメージ×今充実し生き生き輝く生活か

	仕事イメージ	とても そう思う	まあ そう思う	よく わからない	あまり 思わない	まったく 思わない	合計
S高校	技術や才能を生かした仕事	5（71.4%）	45（75.0%）	9（56.3%）	44（61.1%）	12（60.0%）	115 （65.7%）
	安定した生活が送れる仕事	2（28.6%）	7（11.7%）	5（31.3%）	15（20.8%）	7（35.0%）	36（20.6%）
	人と接する仕事	0	2（3.3%）	0	4（5.6%）	0	6（3.4%）
	ものを教える仕事	0	1（1.7%）	0	2（2.8%）	0	3（1.7%）
	人に注目される仕事	0	2（3.3%）	1（6.3%）	2（2.8%）	0	5（2.9%）
	リーダーシップを発揮する仕事	0	1（1.7%）	0	4（5.6%）	0	5（2.9%）
	その他	0	2（3.3%）	1（6.3%）	0	1（1.4%）	4（2.3%）
	どんな仕事もしたくない	0	0	0	1（1.4%）	0	1（0.6%）
	合　計	7（100%）	24（100%）	16（100%）	72（100%）	20（100%）	175（100%）
	仕事イメージ	とても そう思う	まあ そう思う	よく わからない	あまり 思わない	まったく 思わない	合計
M高校	技術や才能を生かした仕事	4（80.0%）	25（69.4%）	4（50.0%）	24（70.6%）	3（37.5%）	60（65.9%）
	安定した生活が送れる仕事	0	2（5.6%）	1（12.5%）	4（11.8%）	1（12.5%）	8（8.8%）
	人と接する仕事	0	3（8.3%）	2（25.0%）	0	2（25.0%）	7（7.7%）
	ものを教える仕事	0	1（2.8%）	0	0	1（12.5%）	2（2.2%）
	高収入が得られる仕事	0	1（2.8%）	0	0	0	1（1.1%）
	その他	1（20.0%）	1（2.8%）	0	2（5.9%）	0	4（4.4%）
	とくにない	0	3（8.3%）	1（12.5%）	4（11.8%）	1（12.5%）	9（9.9%）
	合　計	5（100%）	36（100%）	8（100%）	34（100%）	8（100%）	91（100%）

な人になりたいですか」という質問と、それに続く「それでは実際にあなたは10年後どんな生活をしていると思いますか」という質問の回答をクロスさせたものである。分布のパターンは両校でほぼ共通しているが、マジョリティーとして主要な傾向は、現実的な「安定志向」を予測しながらも、夢としては「能力を活かし仕事で成功してお金持ち」と「自分の一番好きなこ

表８　自分の10年後の夢×自分の10年後の実際の予想

	10年後	TV に出る有名人になる	仕事で成功・金持ちになる	好きな事でその道の達人になる	気楽にのんびり好きな人と暮らす	合計
Ｓ高校	夢に向かって頑張っている	2（28.6%）	18（21.7%）	12（23.5%）	4（10.5%）	36（20.1%）
	安定した仕事・平凡な家庭で普通に	3（42.9%）	57（68.7%）	33（64.7%）	21（55.3%）	114（63.7%）
	まだ中途半端にぶらぶらしている	2（28.6%）	7（8.4%）	3（5.9%）	10（26.3%）	22（12.3%）
	運悪く失敗してひどい目にあっている	0	1（1.2%）	3（5.9%）	3（7.9%）	7（3.9%）
	合　計	7（100%）	83（100%）	51（100%）	38（100%）	179（100%）
	10年後	TV に出る有名人になる	仕事で成功・金持ちになる	好きな事でその道の達人になる	気楽にのんびり好きな人と暮らす	合計
Ｍ高校	夢に向かって頑張っている	2（25.0%）	13（34.2%）	15（39.5%）	3（17.6%）	33（32.7%）
	安定した仕事・平凡な家庭で普通に	4（50.0%）	19（50.0%）	21（55.3%）	12（70.6%）	56（55.4%）
	まだ中途半端にぶらぶらしている	2（25.0%）	6（15.8%）	1（2.6%）	2（11.8%）	11（10.9%）
	運悪く失敗してひどい目にあっている	0	0	1（2.6%）	0	1（1.0%）
	合　計	8（100%）	38（100%）	38（100%）	17（100%）	101（100%）

とを気のすむまでやり続けてその道の達人になる」が選ばれる。現実の冷静な自分の可能性判断をするには、まだ高校生は情報も能力にも自信がないかもしれないが、仕事に夢を描くとすれば現在の意欲や不安とも関わるはずである。しかし、「夢とは違ってまだ中途半端にぶらぶらしているような気がする」という回答がＳ高校で12.3%、Ｍ高校で10.9%あり、「運悪く人生に失敗して自分でも信じられないようなひどい目にあっているような気がする」と合わせて少々未来に悲観的なイメージを描く者は若干Ｓ高校が多い。逆に言えば、Ｍ高校の方が少し楽天的で大きな夢を自由に描いているともいえるかもしれない。

表９は、卒業後の進路と保護者の職業のクロス集計である。保護者の職業の分布は、Ｓ高校では労務職が38.7%、商工自営が21.5%とこれで６割を占めるが、Ｍ高校では労務職が24.5%と他より多いものの、商工自営は8.5%だけで、公務員や事務職の比率より少ない。高校２年生段階での進路希望ではまだ最終的な選択決定ではないから、保護者の職業がそのまま子どもの進路希望に反映しているわけではないだろう。だが島の中に高等教育機関がないＭ高校の場合、大学・短大への進学はかなりの学費等の負担を覚悟しなければならないし、専門学校も島の外に出れば費用面では同様である。保護者の職業が農林漁業と答えた層を両校で比べると、Ｓ高

表 9　卒業後の進路×保護者の職業

	職業	大学・短大	専門学校	就職希望	合　計
S高校	農林漁業	4（13.8%）	3（8.8%）	4（3.7%）	11（6.1%）
	商工自営	8（27.6%）	8（18.6%）	23（21.1%）	39（21.5%）
	経営管理職	0	1（2.3%）	10（9.2%）	11（6.1%）
	専門職	0	1（2.3%）	3（2.8%）	4（2.2%）
	事務職	2（6.9%）	6（14.0%）	6（5.5%）	14（7.7%）
	販売職	1（3.4%）	2（4.7%）	5（5.5%）	8（4.4%）
	労務職	10（34.5%）	15（34.9%）	45（41.3%）	70（38.7%）
	公務員	3（10.3%）	4（9.3%）	5（4.6%）	12（6.6%）
	その他	1（3.4%）	3（7.0%）	8（7.3%）	12（6.6%）
	合　計	26（100%）	34（100%）	109（100%）	181（100%）
	職業	大学・短大	専門学校	就職希望	合　計
M高校	農林漁業	0	6（13.0%）	7（17.5%）	13（13.8%）
	商工自営	1（12.5%）	4（8.7%）	3（7.5%）	8（8.5%）
	経営管理職	1（12.5%）	1（2.2%）	0	2（2.1%）
	専門職	2（25.0%）	2（4.3%）	3（7.5%）	7（7.4%）
	事務職	1（12.5%）	9（19.6%）	4（10.0%）	14（14.9%）
	販売職	0	5（10.9%）	5（12.5%）	10（10.6%）
	労務職	2（25.0%）	11（23.9%）	10（25.0%）	23（24.5%）
	公務員	1（12.5%）	7（15.2%）	7（17.5%）	15（16.0%）
	その他	0	1（2.2%）	1（2.5%）	2（2.1%）
	合　計	8（100%）	46（100%）	40（100%）	94（100%）

校では進路は大学・短大希望（36.3%）、専門学校希望（27.4%）、就職希望（36.3%）となっており、M高校では専門学校希望（46.2%）と就職希望（53.8%）だけで、大学・短大希望者はいない。S高校では労務職の保護者の子どもにも大学・短大希望者は14.3%いるが、数は少ないが経営管理職や専門職の保護者に大学・短大希望者はいない。

もともと高校進学の段階で、工業系の高校を選んでいるということが、以前であれば高卒でふさわしい就職をすることを前提に、将来に備えた知識技能の学習と社会人としての態度を学校生活で養う、という目的に向かっていくのは当然のものであったと考えられる。しかし、工業高校といえど同期の卒業生の半数から３分の２以上が進学する現在は、保護者も学校も高校卒業後ただちに就職して職業生活に入り、親の経済的援助に頼らないあり方を、何か可哀そうなことであるかのように思う傾向が現れているかもしれない。これはもちろん保護者の職業分類だけで判断することではなく、複雑な要素を分析する必要がある。

図１　学校別進路希望と充実感

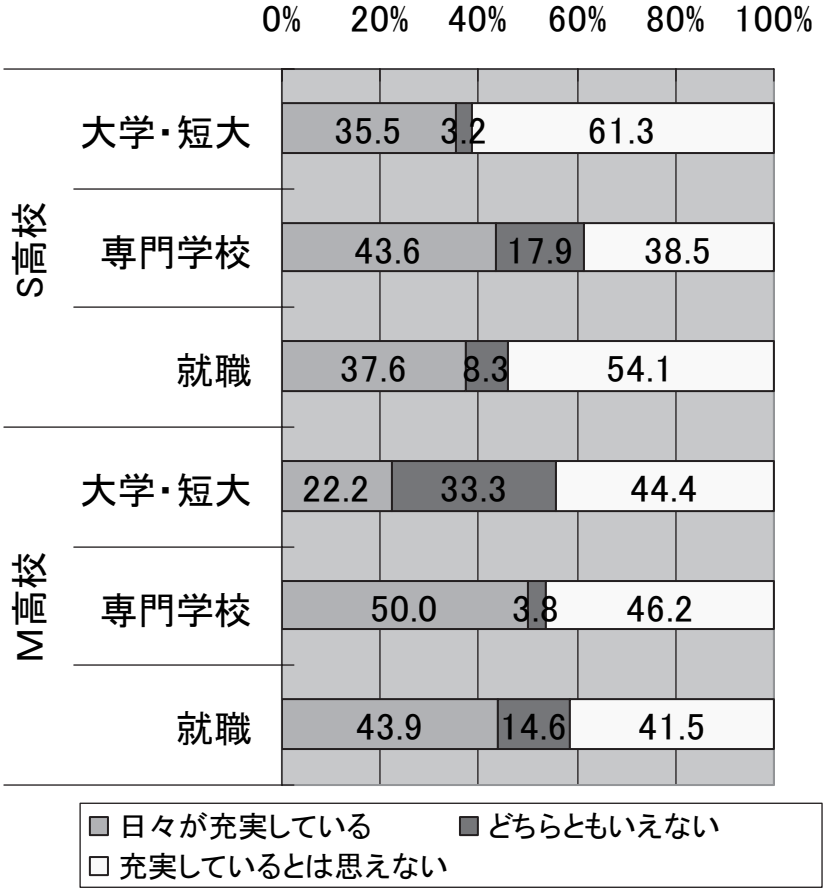
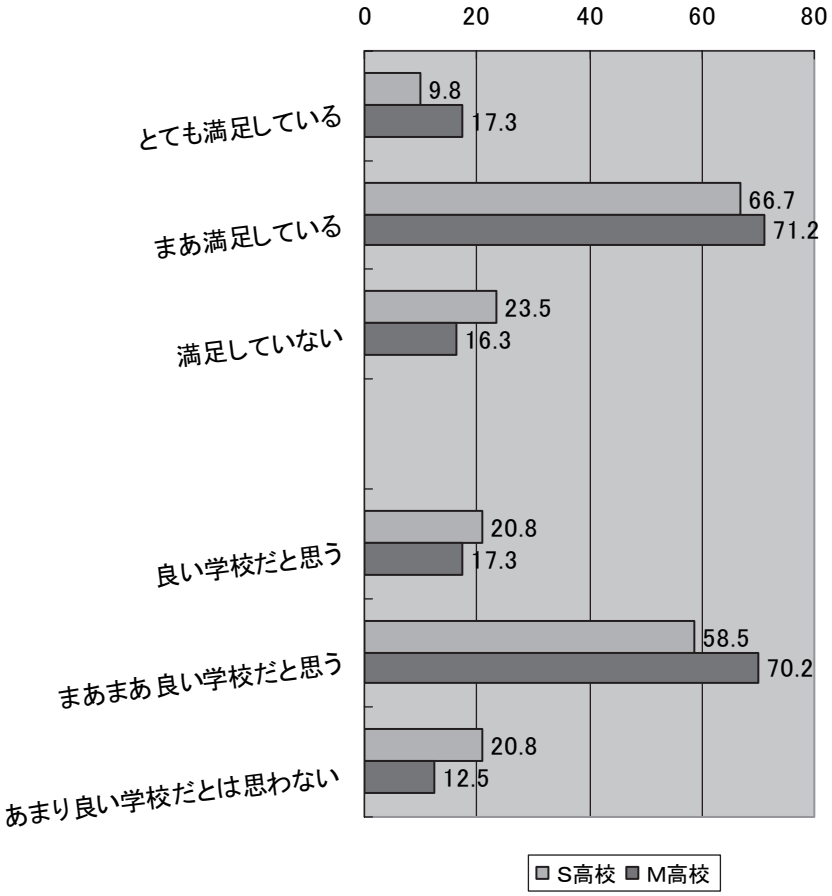


図１は、高校ごとの進路希望を日々が充実していると思うか（３段階）で内訳を見たものである。Ｓ高校、M高校とも「日々が充実していると思う」割合が高いのは専門学校を希望するグループになっており、逆に「日々が充実しているとは思えない」割合は、Ｓ高校で大学・短大希望のグループが61.3%と高く、M高校では進路希望に関わらず40～45%程度ある。（「どちらともえいない」という答えもある程度あるが、M高校の大学・短大希望が高いのは、全部で９名しかいないので見かけ上比率が高くなっている）。

図２は、今の学校生活に満足しているかと学校への評価をきいた結果を示してある。学校生活にとても満足していると答えた者はさほど多くはないが、まあ満足しているまでをみればＳ高校よりM高校の方が満足している比率が高い。また、自分の通う学校が良い学校だと思うと答えた者も20%ほどであるが、ここは若干Ｓ高校の方が高い。ただ、まあまあ良い学校だと思う、を含めればM高校の方がやはり高くなる。

このような結果を考えると、学校生活満足度と日々の充実感とは当然高い相関関係にあるが、それが進路選択や将来展望の確実性や意欲とは直接結びついていない。これは地域と条件を異にするＳ高校とM高校の間でも、さほどの違い

図２　学校満足感と学校への評価



はみられなかった。

以上、２つの工業高校での調査データから、進路選択に関する意識項目を中心にいくつかの結果を抜粋してみてきた。他にも考慮すべきデータ分析上の課題が残るが、紙幅の制約があるので最後に簡単に知見と考察をまとめておきたい。

５．おわりに

高等学校段階の教育は、義務教育ではない。しかし、近年では沖縄県においても中学卒業に続く高等学校進学が既定のコースとして疑いもなく、いわば当たり前となっている。かつて義務教育を終えたら地元で家業を継ぐか、遠く都会へ働きに出るのが多数派に予定された道であった過去の時代から、いまは離島であっても90％以上の子どもが高校に進む状況の中で、中学卒業だけで社会に出るのはかなり特殊なことだと見られる。そして高校卒業後も、自分にふさわしい仕事を見つけることができず、あるいは働くことの目的を見失う若者すら問題になっている。

しかし、ある一時点をとらえて「働いていない」あるいは「不安定な働き方」を問題視するのは、いたずらにそれを病理的社会問題として規定してしまうおそれがあり、またそれが学校教育に責任のある問題なのかどうかも、慎重な

表10　6変数の相関表（ノンパラメトリック検定：スピアマンのローと漸近有意確率）

S高校 Spearman の ρ	今自分が充実し生き生きと輝くか	卒業後の進路希望	進学理由	学校生活の満足	地元への評価	10年後の夢
今自分が充実し生き生き輝くか	1.000	.009 .901	.076 .548	0341** .000	.192** .010	.270** .009
卒業後の進路希望		1.000	−.183 .145	−.041 .584	.059 .433	−.023 .763
進学理由			1.000	.175 .166	−.234 .063	.103 .419
学校生活の満足				1.000	.166** .026	.095 .206
地元（茨城）への評価					1.000	−.044 .560
10年後の夢						1.000

**は１％水準で有意（両側）、*は５％水準で有意（両側）となることを示す

M高校 Spearman の ρ	今自分が充実し生き生きと輝くか	卒業後の進路希望	進学理由	学校生活の満足	地元への評価	10年後の夢
今自分が充実し生き生き輝くか	1.000 有意確率	−.130 .194	−.082 .558	.354** .000	.388** .000	.041 .682
卒業後の進路希望		1.000	−.228 .097	−.163 .100	.023 .816	−.037 .714
進学理由			1.000	.252 .066	.222 .109	−.394** .004
学校生活の満足				1.000	.368** .000	.107 .283
地元（宮古島）への評価					1.000	−.030 .768
10年後の夢						1.000

吟味を要する。そこで沖縄の場合、それはある意味で今急に起こってきた事態ではない。既にみてきたように、沖縄では以前から高校卒業時点で就職先や進学先が決まっていない高卒者が毎年一定量存在する。また、いったん就職しても短期間で転職したり退職したりする者も少なくない。少なくとも当事者の意識において、それは珍しいことではないし、避けるべきことでもない(4)。

ここでわれわれが想定できるひとつの仮説は、現在自分が身を置く学校生活に強い満足やインセンティヴをもっている生徒ほど、学校が用意提供する学業や進路指導の示す道に動機付けられ順応しているのか、という点で、２つの地域を異にする学校でのデータには、多少の違いが見られたことである。とくに大学への進学が、工業高校では普通科進学校の場合とは意味づけが異なることが考えられ、また多様な専門学校

への進学の中身が問題となる。これは、あくまで主観的な態度や意識から見た場合のことであるが、それは茨城と沖縄という地域の差によるものなのか、学校教育の内容の差によるものなのか、あるいは個別の生徒自身の背景に影響されているのか、分析が必要である。今後の課題として、部活動への参加状況や学校外での日常生活、アルバイトの影響など他の変数との関係をさらに分析していく予定である。

念のため調査項目のいくつかの変数間の相関係数を示しておく（表10）。

付記：最後に、アンケート調査にご協力いただいたＳ高校、M高校の進路指導部ご担当の先生はじめ生徒の皆さんに厚く感謝申し上げます。調査の実施・回収に御手数をさいて頂きながら、集計と報告が大幅に遅れたことをお詫び申し上げます。この調査が、高校の現場で日々ご苦労される皆様に参考になるものであれば幸いです。

【註】

(1) 水谷史男「沖縄・奄美における高齢者の現状」（離島エイジング研究会『「長寿村」におけるエイジング問題の研究』科研費基盤研究Ｂ報告書　所収）2004年６月、４～32頁。

(2) ただし、大学等進学者、専修学校進学者、公共職業能力開発施設等進学者のうちには若干（2005年３月では94名）就職しているもの、つまり働きながら学校などへ通っているいわゆる「勤労学生」が含まれている。

(3) 戦後日本の高校教育で職業教育がどのように位置づけられたか、とくに工業系高校との関係については以下を参照してほしい。水谷史男「後期中等教育における職業教育の現状と課題―工業系高校生の進路意識と学校生活調査から―」（明治学院大学社会学付属研究所『研究所年報』35号、2005年３月）。

(4) 沖縄から東京などに出て生活している沖縄出身者に、自由なインタビューを行った新垣譲の著書には、たくさんの沖縄の若者の語った言葉が載っているが、いずれも故郷の島への思いが強く現れている。しかし、その人たちも沖縄にいたときは、むしろ早く島を出たいと願望していた。外へ出てある一定の時間を過ごしたあとで、自分がウチナンチューであることを自覚し、いずれはそこへ帰るところだと考えはじめる経験が数多く語られている。

「僕も一時期までは、自分は沖縄には帰らないんじゃないかと思ってたね。帰るとしても老後かなって。ところが去年帰ったときに、久しぶりに同級生とかと会っていろいろはなしをしてね。そうしたらああそうかと思ったことがあって、それは島の中心はもう僕らの世代なんだなっていうことなんだけど。仕事にしても、そこそこの責任ある立場につくようになっているし。そういうのを見て、ぼくもそこにとけ込んで一緒にやっていこうかなーと思ったときに、それは今しかないんじゃないかって考えたの。今ならまだ間に合うかなってね」（新垣譲『東京の沖縄人』中の伊志嶺安昭インタビューから抜粋。21～22ページ）

「でも実際のところ、自分の肌に合うなって感じるのは東京じゃなくて沖縄なんですよね。だからいつかは帰ると思ってるけど。おばあになったらぜったい宮古に住んでると思うのね。生きているっていうことを実感しながら生活するには、すごくいいところだもん。小さいからいいんだよね。手のひらサイズの実感。ホント、宮古島っていいところだよ～。なんで昔はあんなに毛嫌いしてたんだろうって自分で不思議。こんな島なんて絶対出てやるって思ってたんだけどね。いまはすごく宮古島の生まれで良かったって本当に思ってる」（同書宮国優子のインタビューから抜粋。112～113ページ）

【参考文献】

新垣譲『インタビュー東京の沖縄人－「東京」で暮らし「沖縄」を思う若きウチナーンチュたち』ボーダーインク、2003年３月。

沖縄タイムス「庶民がつづる沖縄戦後生活史」沖縄タイムス社、1998年。

沖縄労働経済研究所『沖縄県における若年者雇用機会創出プログラム～人的資源の育成と社会的資源の適正配置システムを中心に～』（財）沖縄労働経済研究所、1996年３月。

沖縄県商工労働部『Ｕターン等実態調査』沖縄県商工労働部職業安定課、1997年。

沖縄県『沖縄県の賃金、労働時間、雇用の動き－毎月勤労統計調査地方調査年報』各年。
沖縄県商工労働部『高校生の巡回職業講話に関する報告書』沖縄県商工労働部雇用対策課、2002年３月。

高校調査（主要質問項目）単純集計表

質問項目	S高校（184）	M高校（104）	計（288）
性別　女性	5　(2.7)	37（35.6）	42
男性	178（97.3）	67（64.4）	245
兄弟姉妹　一番上	58（31.7）	26（24.8）	84
真ん中	38（20.8）	30（28.6）	68
末っ子	81（44.3）	45（42.9）	126
一人っ子	6　(3.3)	4　(3.8)	10
保護者の職業			
農林漁業	11　(6.1)	13（13.5）	24
商工自営	39（21.5）	8　(8.3)	47
経営管理	11　(6.1)	2　(1.9)	13
専門職	4　(2.2)	7　(7.3)	11
事務職	14　(7.7)	16（16.7）	30
販売職	8　(4.4)	10（10.4）	18
労務職	70（38.7）	23（24.0）	93
保安・警備	0	0	0
公務員	12　(6.6)	0	12
その他	12　(6.6)	15（15.6）	27
無職	0	2　(2.1)	2
卒業後の希望進路			
就職希望	109（59.2）	41（39.8）	150
４年生大学	28（15.2）	8　(7.8)	36
短期大学	3　(1.6)	1　(1.0)	4
専門学校	34（18.5）	49（47.6）	83
その他	10　(5.4)	4　(3.9)	14
就職の理由		就職希望41	
ぜひやりたい仕事がある	15（13.6）	11（26.8）	26
早くお金が稼ぎたい	66（60.0）	23（56.1）	89
家業を継ぐ	2　(1.8)	0	2
勉強はもう十分	1　(0.9)	3　(7.3)	4
他の土地に行きたい	2　(1.8)	2　(4.9)	4
その他	24（21.8）	2　(4.9)	26

質問項目	S高校（184）	M高校（104）	計（288）
就職したい場所			
自宅から通える場所	54（63.5）	2　(6.5)	56
県内・近県	26（30.6）	16（51.6）	42
大都市圏	3　(3.5)	13（41.9）	16
それ以外	2　(2.4)	0	2
その他	0	0	0
希望の就職先がない場合（S高校のみ）			
とにかくどこかに就職	54（62.1）		54
とりあえずアルバイト	9（10.3）		9
資格を取る専門学校	22（25.3）		22
仕事はせず家で	0		0
その他	2　(2.2)		2
進学の理由		進学希望54	
興味ある勉強を学ぶ	32（47.8）	32（59.3）	64
学歴をつけて仕事に	17（25.4）	13（24.1）	30
自由な学園生活	10（14.9）	2　(3.7)	12
親や周囲の期待に	3　(4.5)	0	3
その他	3　(4.5)	7（13.0）	10
進学したい場所			
自宅から通える場所	15（25.9）	0	15
県内・近県	27（46.6）	19（57.6）	46
大都市圏	13（22.4）	10（30.3）	23
それ以外	3　(5.2)	4（12.1）	7
学校の授業以外で勉強しているか			
自宅で学習	25（13.7）	8　(7.5)	33
塾・予備校などに通って	2　(1.1)	0	2
通信教育を受けて	0	2　(1.9)	2
家庭教師に習っている	0	0	0
その他	5　(2.7)	5　(4.7)	10
特に何もしていない	151（82.5）	91（85.8）	242
週末の過ごし方			
自宅で学習	3　(1.6)	4　(2.6)	7

質問項目	S高校（184）	M高校（104）	計（288）
部活動	55（30.2）	23（15.0）	78
塾などで勉強・資格試験	0	3（2.0）	3
趣味・お稽古	11（6.0）	5（3.3）	16
ボランティア活動	0	1（0.7）	1
TVまたはTVゲーム	74（40.7）	57（37.3）	131
地域行事に参加	0	36（23.5）	36
アルバイト	32（1.6）	16（10.5）	48
家族と過ごす・家の手伝い	3（1.6）	16（10.5）	19
友人と寄り道	0	0	0
その他	4（2.2）	8（5.2）	12
よく出かけるところ			
デパートや大型店	20（8.4）	33（23.6）	53
書店・音楽ショップ	81（34.2）	33（23.6）	114
図書館	3（1.3）	2（1.4）	5
スポーツ施設	5（2.1）	0	5
海や山・野外の自然	3（1.3）	4（2.9）	7
公園・遊園地	2（0.8）	1（0.7）	3
カラオケ・ゲーム店等	52（21.9）	33（23.6）	85
友人の家	46（19.4）	28（20.0）	74
フード店	14（5.9）	0	14
その他	11（4.6）	6（4.3）	17
アルバイト			
定期的にアルバイト	61（33.9）	36（34.3）	97
不定期にアルバイト	19（10.6）	16（15.2）	35
アルバイトはしていない	100（55.6）	47（44.8）	147
どこでアルバイトしたか			
ファーストフード店	7（1.6）	6（5.7）	13
レストランや喫茶店	14（7.6）	13（12.4）	27
商店などで販売	31（16.8）	7（6.7）	38
会社で事務	2（1.1）	0	2
工場・倉庫等作業	8（4.3）	4（3.8）	12

質問項目	S高校（184）	M高校（104）	計（288）
街頭でティッシュ配り	0	0	0
家業の手伝い	0	0	0
その他	19（10.3）	13（12.4）	32
アルバイトの魅力			
友達が増える	3（1.6）	5（4.8）	8
学校以外の知り合いができる	4（2.2）	4（3.8）	8
遊ぶお金が稼げる	47（25.5）	8（7.6）	55
人と接するのが楽しい	5（2.7）	6（5.7）	11
社会勉強になる	9（4.9）	13（12.4）	22
将来のため貯金ができる	7（3.8）	6（5.7）	13
その他	3（1.5）	1（1.0）	4
就きたい仕事のイメージ			
技術や才能を生かす（職人等）	115（65.7）	60（64.5）	175
安定した生活（公務員等）	36（20.6）	9（9.7）	45
人と接する（店員・接客等）	6（3.4）	7（7.5）	13
教える仕事（教師等）	3（1.7）	2（2.2）	5
注目される仕事（芸能人・選手等）	5（2.9）	2（2.2）	7
指導的仕事（経営者等）	5（2.9）	6（19.4）	11
自然を相手にする仕事（農業等）		1（1.0）	1
その他	4（2.3）	4（4.3）	8
仕事に就く気はない	1（0.6）	9（9.7）	10
将来仕事についての不安			
自分の能力への不安	70（29.5）	47（32.2）	117
周りとの人間関係	31（13.1）	34（23.3）	65
興味を持続できるか	43（18.1）	15（10.3）	58
収入面の不安	36（19.9）	19（13.0）	55
失業の不安	23（12.7）	5（3.4）	28
何となく不安	17（9.4）	14（9.6）	31
その他	2（1.1）	1（1.0）	3

質問項目	S高校（184）	M高校（104）	計（288）
特に不安はない	15 (8.3)	11 (10.5)	26
今の学校生活に満足しているか			
とても満足している	18 (9.8)	13 (17.3)	31
まあ満足している	122 (66.7)	74 (71.2)	196
満足していない	43 (23.5)	17 (16.3)	60
学校に要望したいこと		複数回答	
課外活動に力を入れる	22 (12.0)	18 (11.3)	40
面白い授業を増やす	90 (49.2)	46 (28.8)	136
施設を充実して	18 (9.8)	23 (14.4)	41
進学や就職の指導	6 (3.3)	16 (10.0)	22
校則などを変えて	19 (10.4)	38 (23.8)	57
とくに学校に望むことはない	24 (13.1)	16 (10.0)	40
その他	4 (2.2)	3 (1.9)	7
この学校が気に入っているか			
よい学校だと思う	38 (20.8)	18 (17.3)	56
まあまあよい学校だと思う	107 (58.5)	73 (70.2)	180
あまりよい学校だとは思わない	38 (20.8)	13 (12.5)	51
学校のよいところ			
役に立つ勉強ができる	62 (33.7)	29 (24.2)	91
よい先生がいる	14 (7.6)	7 (5.8)	21
よい友達がいる	36 (19.6)	44 (36.7)	80
部活など面白いことができる	15 (8.2)	10 (8.3)	25
環境や雰囲気がよい	27 (14.7)	15 (12.5)	42
安定した就職に直結	24 (13.0)		24
費用がかからず奨学金あり	6 (3.3)		6
よいところはない		11 (9.2)	11
その他		4 (3.3)	4
学校のいやなところ			
授業がつまらない	50 (27.8)	35 (25.2)	85
いやな先生がいる	64 (35.6)	33 (23.7)	97
いやな生徒がいる	14 (7.8)	15 (10.8)	29

質問項目	S高校（184）	M高校（104）	計（288）
自分のやりたい活動ができない	8 (4.4)	15 (10.8)	23
環境や雰囲気がよくない	11 (6.1)	12 (8.6)	23
いやなところはない	27 (15.0)	23 (16.5)	50
その他	6 (3.3)	6 (4.3)	12
学校以外で楽しいこと			
好きな勉強	2 (1.1)	4 (3.2)	6
アルバイト	14 (7.7)	7 (5.6)	21
家族とのやり取り	5 (2.7)	4 (3.2)	9
友達づきあい	109 (59.9)	70 (55.6)	179
彼氏・彼女とのつきあい	23 (12.6)	22 (17.5)	45
習い事	1 (0.5)	1 (0.8)	2
ギャンブル	12 (6.6)	7 (5.6)	19
その他	2 (1.1)	11 (8.7)	13
今気になっていること			
自分の将来	84 (29.2)	47 (28.5)	131
異性	28 (9.7)	11 (6.7)	39
部活動	26 (9.0)	11 (6.7)	37
ファッション	48 (16.7)	31 (18.8)	79
スポーツ	22 (7.6)	9 (5.5)	31
芸能界	5 (1.7)	5 (3.0)	10
音楽	48 (16.7)	31 (18.8)	79
政治・経済	14 (4.9)	4 (2.4)	18
その他	13 (4.5)	16 (9.7)	29
充実しいきいきと輝く生活をしているか			
とてもそう思う	7 (3.8)	6 (5.7)	13
まあそう思う	62 (33.7)	40 (38.1)	102
あまり思わない	78 (42.4)	38 (36.2)	116
まったく思わない	20 (10.9)	8 (7.6)	28
よくわからない	17 (9.2)	11 (10.5)	28
10年後の夢			
ニュースやTVに出て有名人	7 (2.2)	8 (7.8)	15
能力を生かし成功金持ちに	83 (39.2)	39 (38.2)	122
好きなことを続けて達人に	52 (28.3)	38 (37.3)	90

質問項目	S高校（184）	M高校（104）	計（288）
気楽にのんびり好きな人と暮らす	38（20.7）	17（16.7）	55
10年後の生活			
夢に向かって頑張っている	36（19.6）	33（32.4）	69
安定した仕事と家庭で普通に	114（62.0）	57（55.9）	171
中途半端にぶらぶらして	22（12.0）	11（10.8）	33
失敗してひどい目にあっている	7（3.8）	1（1.0）	8
地元がすきか			
とても好き	50（27.8）	63（61.2）	113
どちらかといえば好き	104（57.8）	17（16.5）	121
どちらかといえば嫌い	21（11.7）	16（15.5）	37
嫌い	5（2.8）	7（6.8）	12
今の所に住み続けたいか（S高校のみ）			
住み続ける（他には行かない）	45（25.1）		
住みたいが他へ行くだろう	50（27.9）		
他へ行くがいずれ戻るだろう	47（26.3）		
住み続けたくない（他へ行く）	37（20.7）		
母親とは			
人間として尊敬できる人	36（19.9）	33（33.0）	69
何でも相談できる友人	6（3.3）	4（4.0）	10
生活を支えてくれる人	114（63.0）	47（47.0）	161
お互いに無関心な同居人	9（5.0）	2（2.0）	11
干渉し邪魔をする人	9（5.0）	4（4.0）	13
その他	7（3.9）	10（10.0）	17
父親とは			
人間として尊敬できる人	71（39.2）	35（36.1）	106
何でも相談できる友人	6（3.3）	2（2.1）	8

質問項目	S高校（184）	M高校（104）	計（288）
生活を支えてくれる人	84（46.4）	36（37.1）	120
お互いに無関心な同居人	9（5.0）	2（2.1）	11
干渉し邪魔をする人	6（3.3）	5（5.2）	11
その他	5（2.8）	17（17.5）	22
交際している異性			
いる（いた）	92（50.8）	40（39.6）	132
いない	89（49.2）	61（60.4）	150
将来結婚したいか			
結婚はしてみたい	151（86.8）	74（90.4）	225
したくない	20（11.5）	9（9.8）	29
その他	3（1.7）	8（8.7）	11
自分の子どもはほしいか			
ほしいと思う	143（81.3）	66（70.2）	209
今は思わないがいずれ思う	19（10.8）	21（22.3）	40
ほしいと思わない	14（8.0）	7（7.4）	21